

令和2年度 保育園(3園) 事業報告

1. 事業報告の概要

中長期計画のビジョンとして「育ち合うクラスづくり」～乳児期から幼児期に向けて途切れない保育へ～を掲げ、園庭開放、子育て支援と連携、複合施設の強みを活かし、学童、高齢者との世代間交流や地域活動を通して地域交流、小学校との連携など地域に開かれた保育園を目指して計画したがこの度の新型コロナウイルス感染拡大の影響により計画の変更、中止を余儀なくされ、これまでの行事の見直しや実施方法を考え実行できた。引き続き社会の動き、市行政の意向、地域の状況と向き合い保護者のニーズに沿った保育園運営を目指したい。

2. 財務の視点

(1)経営の安定

- ・全園利用定員を満たし収入の増額を目指し、また補助金加算を取るための人員配置等、乳児保育園 2 園は安定した経営ができた。るり保育園は加算による収入増は実行できたが、それ以上に人件費がかかり経営状態は良くなかった。適切な職員配置が必要だった。
- ・派遣職員を直接雇用へ転換し委託手数料を無くす件については 10 名中 9 名が直接雇用となり四恩学園の職員として働いて頂いている。初年度は紹介手数料(想定年収の 20~25%)がかかり支出経費が膨らんだが派遣保育士業界の委託料の増々値上がり傾向がある中での対策。対象保育士は直接雇用することで組織への帰属感が出てきている。
- ・駅前保育園は、四恩るり 2 乳児保育園は一園になり賃貸料を払いながら経営が成り立つか試験的な一年であったが入所児の年齢のばらつき等を期間限定保育や面積基準緩和等を工夫し、取り入れたことで経営安定に結び付いた。

3. 顧客の視点

(1)保育の質の向上

- ・保育の在り方を見直す。(行事の在り方も含む)
⇒当たり前に行ってきた年間行事をコロナ対策により中止、または形を変えて実施してきた。来年度以降の保育の在り方を見直す機会になった。
- ・配慮を要する子どもの情報共有を行う。
⇒保護者と個別相談する機会も増え、自宅と園での様子、医療保健、相談機関からの情報などを踏まえ共有し保育に活かし始めている。
- ・食育の年間計画をたて、栄養士と共に興味の持てるものにする。

⇒野菜、果物の栽培、栄養士からの栄養バランス・食材に関する事、保育士から食事マナーや健康に関する事など月 1 回クラスごとに食育時間を設けお話をしている。

- ・保育環境を整える。(3号館保育室を中心に改修、修繕を行う)

⇒3号館(るり保育園)保育室については大掛かりな工事は来年度以降に見送り、エアコンの取り換え工事等急を要する工事を行った。共同の場所、3号館厨房、厨房トイレ・鉄扉、厨房機器等の改修・修繕を行った。

今後も3号館(H7建設)建物全体の老朽化に伴う維持、修繕にかかる費用の捻出が課題である。

- ・高齢者施設との交流は新型コロナ感染拡大防止のため実行できなかった。

(2)地域貢献

- ・未就園児に定期的な開放日を設ける。(コロナ影響で具体的に展開できず)

- ・入所前見学を随時対応する。(保護者の見たい時間帯・場面に合わせる)

⇒感染拡大防止の対策(健康チェック・消毒)をし、実施。

- ・地域住民との交流を図る。(野菜市、地域行事等)

⇒地域行事等がことごとく中止となり実現できなかった。その中で保育園運動会の交通警備に初めて近隣町会に依頼し、町会長、民生委員、子ども見守り隊リーダーの3名の協力を得た。また、ふれあいフェスタでは保育園・学童の保育士が中心となり、市営苅田北住宅自治会と企画調整し、広範囲にわたる団地空き地の草刈りを住民と共に実行した。(四恩学園全体で80名の職員動員)

- ・保護者が集える場所の提供を行う。

⇒保護者会・アルバム委員会を月一回開催。

(3)行政・関係機関との連携

- ・要対協ケース、気になる子どもは区子育て相談室、保健師に報告する。

- ・市こども青少年局巡回指導員のアドバイスを活用。

- ・療育機関と連携する。(要保護者承諾)

⇒区子育て相談室・保健師・区保育担当と情報共有を実施する。

- ・小学校と連携(苅田北小と接続カリキュラムレベル2まで確立)

⇒コロナ影響で訪問実施できず今後の接続カリキュラムの在り方に課題。

- ・私保連・区子育て連絡協議会の主催する情報交換会に参加する。

⇒各協議会等も延期、中止が相次ぐ。

4. 内部統制の視点

(1)園のプロモーション

- ・ニーズに合わせたHP・パンフレット(しおり)を作る。

- ・保育園独自のユニフォーム(Tシャツ等)を作り園内外、地域行事に参加する。

- ・園開放で地域住民が雰囲気を知る機会を設ける。
- ⇒地域に対してのプロモーションは具体的に展開できなかった。
- 子育て支援利用者に保育園の PR、園見学や一時保育の登録の案内を行う。
- 学童クラブの入会案内を「ひまわり幼稚園」「東よさみ幼稚園」の協力を得て配布する。

(2)業務の効率化

- ・ICT 導入により手書き資料の量を減らす。
 - ・パソコン作業のできる環境づくり（場所と必要台数・パソコン教室開催等）
- ⇒各園ともパソコンの台数を増やし、慣れ始めているが業務の効率化まで至っていない。CHAPPY（保育園管理システム：チャイルド社）の機能を有効に活用できていないことが課題である。

5. 学習と成長の視点

(1)保育士の人材確保

- ・実習生、インターンシップを奨励し学生との繋がりを強化する。
- ⇒実習生を学生バイト契約・卒業後の採用に至った。
- マイナビと契約し就職フェアの参加とエントリー学生への対応、採用試験へ結び付けた。
- コロナの影響で来阪できない学生に対し、WEBにて施設案内（動画と説明）面接と適性検査を実施。採用に至った。
- 引き続き実習、インターンシップの受け入れ、養成校との関りを強化し、相互に良いイメージを持てるよう時間をかけて交流を図る。
- ・無資格者の採用ルートの確立。
- 無資格⇒子育て支援員（研修として資格講習受講）今年度は対象者無し。

(2)研修体制の構築

⇒園内研修の構築が課題。外部研修にあつては WEB 研修が多くなっている。

6. 地域子育て支援拠点事業（四恩子育て支援センター：るり保育園）

コロナ対策の為、自由来館や講座を中止する事もあったが大阪市・住吉区と協議、連携を取りながら感染対策（消毒と人数制限等）をして継続した。不安を抱えている母親には定期的に電話し大変喜ばれた。住吉区の掲示板・ツイッター等も活用しながら情報発信。WEB と冊子で子育て情報フェアに参加。利用者から一時保育・乳児保育園の入所へ繋がった。

乳児院の BP1 プログラムの手伝いから支援センターへの繋がりができた。来年度はファシリテーター講座を受講予定。

地域子育てサロン（コロナの為中止多い）ボランティアとの連絡、情報交換を継続。

7. 大阪市留守家庭児童対策事業（四恩子どもの家：学童クラブ）

20名以上の登録会員を確保する為、広報に力を入れる。（HP活用・るり保育園年長児・近隣幼稚園、認定こども園へ募集案内を配布）。また閉館時間を15分延ばすことで補助金が増額される。学童に係る職員（支援、指導ができる）を配置し、全員行政の指定する放課後児童支援員認定資格研修を受講した。

コロナの影響で行事等ができず残念であったが、コロナが感染拡大し始めた頃、突然の小学校休校・いきいき教室閉鎖の状況の中、各学童クラブは朝から開館し対応したことは世間からスポットが当たった。地下鉄あびこ中央商店街の惣菜店「咲菜」からの3か月に及ぶおかずの提供。ローソンおにぎり、USJ帽子寄贈。地域の方の手作りマスク、消毒ジェル、保護者からはお米、マスク、お菓子の寄贈。商店街有志より手作りマスク寄贈、DVD貸し出し、卒業生やボランティアが駆け付けて支援して頂いた。また保護者も在宅ワーク中は家庭保育の協力など、いろいろな方々に支えて頂き、職員も児童も人の温かさを実感した一年であった。